

買場紗綾市(かいばさやいち)

江戸時代中期に「紗綾織」という織物が盛んになったのをきっかけに、天満宮境内で行われていた絹市を「紗綾市」と呼ぶようになりました。その後、明治16年に買場通りに物産売買所が設けられたのを機に同所に場所を移しましたが、この物産売買所を「買場」といいました。現在のメガドンキ付近にできた「下市場」に対して「上市場」とも呼ばれ、織物や日用雑貨の取り引きで賑わったといえます。

本町一丁目の古い町並みの魅力を背景に、この「市」を復活させ観光・経済効果を狙おうと平成8年3月から「買場紗綾市」を開催しています。(現在は、「四辻の斎嘉」で毎月第一土曜日に開催しています。)



今の紗綾市の様子



天満宮

天満宮社殿(てんまんぐうしゃでん)

(県指定重要文化財)

天満宮の社殿は、県内の江戸時代の社殿建築に多く見られる、本殿が幣殿・拝殿につながった権現造の形式です。

本殿・幣殿は外壁の前面に極彩色の精巧・華麗な彫刻が施されており、内部は同様な彫刻とともに壁画も描かれていて、北関東の近世神社建築の特徴をよく示した優れた建築です。

*幣殿…神社で、参詣者が幣帛(へいはく)をささげる社殿。拝殿と本殿との中間にある。

*幣帛…神社で、神前に供えるものの総称。みてぐら。ぬさ。

*拝殿…神官が祭典を執行したり、参拝者が拝礼したりするための建物。神社本殿の前におかれる。

